



新型コロナウイルスへの対応が続く中、将来の社会や環境活動のフロントランナーである大学生が生活の変化や将来への展望についてどう考えているのか、というテーマで座談会を行いました。

【概要】

- ◇主催：全国ユース環境ネットワーク事務局
- ◇共催：全国大学生環境活動コンテスト実行委員会

【参加者】

- 川井麻央さん（慶應義塾大学4年、ecocon実行委員会学生スタッフ）
- 廣木亮哉さん（東京都市大学4年、ecocon実行委員会学生スタッフ）
- 安藤令奈さん（お茶の水女子大学3年）
- 小林璃代子さん（横浜市立大学2年、横浜橋通商店街学生スタッフ代表）
- 川内美月さん（横浜市立大学4年、RCE横浜若者連盟）

◀ 参加者と事務局メンバー

大学生 SDGs 座談会 ~ with コロナの時代、これからの持続可能な社会を考える ~

テーマ① 新型コロナウイルス感染拡大の中、今抱えている悩み

- 川井：** イベントなどを開催しようとしてもメンバーが集まりにくい現状です。また友人と会うことがないので、刺激を受けて「頑張ろう」という意欲がわからず、モチベーションの維持も困難です。
- 廣木：** 研究をオンラインに切り替えたことで、研究室の仲間や教授と会う頻度が少なくなりました。日頃の活動も、ライブ配信などを試みました。企画を練ることは楽しいですが、ずっと室内にいると気分転換が難しいです。
- 安藤：** オンラインの活用が今後どこまで続くのかが同級生の間でも話題に挙がります。実際に、雑談や他愛のない話で生まれていたことも、完全にシャットダウンしてしまいました。
- 小林：** コミュニケーションが思い通りにいかず、今後どうなるかを考えています。大学3,4年でインターんや海外に行く希望もありましたが、行けなくなりました。オンラインの授業で学び続ける意欲がわきません。
- 川内：** 以前はボランティア活動の際に気軽に現地に足を運び、新しい活動のきっかけが生まれたりしました。今は団体の活動でもオンラインを利用していますが、実際に会ってわかる雰囲気なども感じづらいです。

テーマ② 「SDGs」や「持続可能な社会」についてどう思うか

- 川井：** コロナはすべての国が一体とならないと解決しない問題で、無意識のうちにSDGsの「誰一人として取り残さない」という考えが多く的人に植え付けられたのではないかとも思いました。
- 廣木：** 今回のコロナの影響で、学生団体や企業が取り組めるSDGsの「18番目のゴール」を見つける社会になったのではないかと思いました。「良くない状況」を逆手にとり、新しいチャンスにつなげたいと思います。
- 安藤：** 「自然と共に存する」ことについて改めて考えました。新技術が開発・導入される中、それが果たして自然を傷つけないか、エシカルやサステナブルな経済活動であるかを考えることが多くなりました。
- 小林：** 私はSDGsについて考える機会がより多くなりました。「誰一人として取り残さない」の「取り残される人」は誰を指すかについても、今回のコロナで私自身が弱者の立場になったことで、改めて考える機会となりました。
- 川内：** SDGsとの向き合い方が変わり、常に軸にして考えるべきであると思いました。これまでSDGsは流行り物のイメージがありました。今後は、SDGsを、定規のように「自分を測るもの」として捉えたいと思います。

テーマ③ 大学卒業後の進路や目標は？

- 川井：** 就職は一般企業に決まっています。グローバルなデジタルインフラの整備にも携わり、その技術やノウハウを開発途上国で活かしたいと思います。常に変化する社会の波に置いていかれないかは不安です。
- 廣木：** 大学院に進むことが決まりました。将来は社会の役に立ち、地域の人たちに恩返ししたいと考えています。現在気象について研究をしているため、気象災害で被害に遭う人を減らしたいと思います。
- 安藤：** 臨床心理で、公認心理士の資格を取りたいと思います。経済と医療の関係性を、一般の人にもわかりやすく解説できる専門家になりたいです。また、地域に根ざした仕事にも興味があります。
- 小林：** 地元の人と他地域の人を繋げる仕事をしたいと思います。旅行で訪れた場所に知り合いがいて自分の居場所があることが、コロナ禍でも心の拠り所となりました。今後、地域内外の人々が繋がれる機会や場を作りたいです。
- 川内：** 人と町に関われる仕事に就きたいと思います。訪れる人や住む人が生き生きとしていることが町の持続性に繋がると思うので、オンラインを活用して、たくさんの人と関わりたいと思います。



大学生SDGsメッセージ

座談会の最後に、全国のユース世代に向けて、SDGs達成のための想い・メッセージをその場で作成し発表いただきました。

